



DADONIPPAN
74-10-87

ブラジル・ハイカイの確立を

非日系詩人に研究熱

ポルトガル誌の大会再び

日伯文化情報誌「月刊ポルトガル」(坂口功治代表)が、昨年こころみたブラジル・ハイカイ大会は非日系の日本研究者をはじめ多くの人を集め、主催側も、その反響を予想外とし、ポルトガル語によるハイカイの世界確立をめざすため、ことしも十七日午後七時から市立文化センター(ベルゲイロ街一〇〇番)で開くことを決めた。協力は国際交流基金、後援・日伯文化交流基金、南米銀行、日本航空、ニッケイパレ

スホテル。同誌では、開催目的を次のようにうたっている。五、七、五の十七音かななる俳句は世界で最も短い詩である。最近、海外でも俳句ブームで、特にアメリカ、ドイツ、カナダ、アフリカに愛好者が多く、日本の俳句雑誌にも日本語以外による作品が紹介されるようになってきている。

ブラジルでも、一九二八年にアルフラネオベイショットによって、初めて俳句が紹介され、その後

後もページャ誌に、詩人ミロール・フェルナンデスが発見し、この言葉をブラジル人の間に定着させた。また、日伯文化交流の創案者の一人である詩人ギリエルメ・デ・アルメイダも、ポルトガル語による作句を普及した一人として知られている。

今大会は、ブラジル全国の俳句愛好者を一堂に集め、第一回に引き続いて、HAIKAIをブラジル文学の一つとして捉え、議論し、ポルトガ

ル語による俳句を確立していくことを目的とする。大会当日のプログラムは次の通り。



(左から) 詩人のロドルフォ・グチーラ氏
坂口代表、半田編集長

- ▽第一部 II 「HAIKAI」についての講演。半田フランシスコ(ポルトガル誌編集長)、パウロ・レミンスキー(詩人・ハイカイスタ)、斎藤ロベルト(詩人・ハイカイスタ)。
- ▽第二部 II 「ハイカイコンクール」審査員。斎藤ロベルト、パウロ・コリーナ、アリセ・ルイツ、オルガ・サバリ、河井美津子、パウロ・レミンスキー。ポンカン劇団とアキラ・Sによるハイカイ・パフォーマンスとハイカイ・ミュージック。
- ▽第三部 II 「芭蕉について」鈴木悌一、デシオ・ピゲナタリ。
- ▽第四部 II コンクール入賞者発表

坂口代表は「昨年は、本誌創刊一周年記念の十二月に行つたがことしは芭蕉の命日(十二日)に合わせて開く。欧米でのハイカイ研究は盛んだが、ブラジルでも多くの研究者が詩人の中に現われ、心強く思っている。ブラジルハイカイ確立の日は近いと思う。今大会も、多くの企業の理解を得て、協力を頂いたことを感謝していると語っている。

表
貴方
オ
R. G.
F. C.